

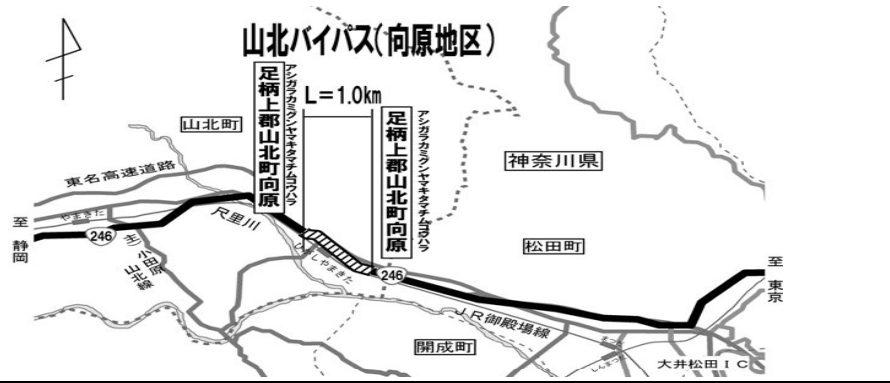
## 再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道246号山北 <sup>やまきた</sup> バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	神奈川 <sup>あしがらかみくみやまきたまちむこうはら</sup> 県足柄上郡山北町向原地先			延長	1.0km
事業概要	<p>一般国道246号は、東京都千代田区から神奈川県内の内陸部を横断し、静岡県沼津市に至る延長約120kmの主要幹線道路である。山北バイパスは、線形不良区間及び狭小幅員区間の解消を目的とした延長1.0kmのバイパス事業である。</p>				
S61年度事業化	H7年度用地着手		H8年度工事着手		
全体事業費	約51億円	事業進捗率	約92%	供用済延長	0km
計画交通量	15,800台/日				
費用対効果分析結果	$B/C$ <small>(事業全体)</small> 1.1  <small>(残事業)</small> 6.9	総費用 <small>(残事業)/ (事業全体)</small> 9.8/ 64億円 事業費：3.7/ 58億円 維持管理費：6.1/ 6.1億円	総便益 <small>(残事業)/ (事業全体)</small> 68/ 68億円 走行時間短縮便益：52/ 52億円 走行経費減少便益：7.2/ 7.2億円 交通事故減少便益：8.1/ 8.1億円	基準年 <small>(残事業)/ (事業全体)</small> 平成22年	
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 交通量：B/C=6.1~7.8（交通量 ±10%） 事業費：B/C=6.7~7.2（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=6.8~6.9（事業期間 ±20%）				
事業の効果等	(1) 歩道整備による安全性の確保：並行する国道246号には歩道未整備区間が存在し、歩行者の通行に支障をきたしており、山北バイパスの整備により、歩道が確保され安全性が確保される。 (2) 休日交通の考慮：並行する国道246号の周辺地域には観光地が存在するため、休日は平日に比べ交通量が多い。山北バイパスの整備により、利便性が向上し観光ルートとしての信頼性向上に貢献する。 (3) 災害等による通行止めの考慮：山北バイパスの整備により、災害時等により東名高速道路が通行止めになった場合、迂回する交通の損失の緩和に貢献する。 (4) 歩行者の移動サービス向上：歩行者は周りの人を気にせず、自由に歩行することが可能となる。 (5) 地域分断の軽減：現道の交通がバイパスへ転換することにより、現道を横断する歩行者の時間ロスが軽減される。 (6) 救急医療活動のアクセス向上：向原地区及び東海大学病院への救急車のアクセス時間短縮により、救命率が向上する。				
関係する地方公共団体等の意見	・神奈川県知事の意見：一般国道246号の向原地区は、交通混雑が著しく生活活動や経済活動に支障をきたしているとともに、線形不良や幅員狭小による走行性の低下や歩道の未整備による交通安全上の課題などがある。山北バイパス（向原地区）は、これらの課題を解決するとともに、東名高速道路通行止時の迂回機能の向上にも資する大変重要な路線であり、引き続き本事業を強力に推進されたい。				
事業評価監視委員会の意見	事業の継続を承認する。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	ー				
事業の進捗状況、残事業の内容等	向原地区の用地取得率は約100%（残りはJRのみで、計画的に用地取得可能）				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	向原地区の用地取得率は約100%であり、残る工事は橋梁と本線盛土及び舗装が残っているが、計画的に進めることが可能。				
施設の構造や工法の変更等	道路構造の変更（幅員22.25m→13.0m）及び構造物の見直し（L型擁壁→法面処理）並びに騒音対策の再検討（遮音壁設置位置の見直し）等により事業費を約4.1億円縮減。				
対応方針	事業を継続				
対応方針決定の理由	以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。				

事業概要図

凡 例	
	供 用 中
	事 業 中
	再評価箇所
	うち供用中



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。